

いつも感謝

城星学園小学校五年C組学級通信
令和六年卯月十二日発行 第二号

物事をスタートさせる方法は、話すことを止めて、とにかく手を動かすことだ。

—ウォルト・ディズニー

五年生になってから

荒木 楽邦高

僕は、四月に入ってから数日自分の部屋を整理整頓していました。そんな中で、新しい教室、クラス、友だち、出席番号、担任の先生、他のクラスの先生、教科書が誰（何）なのが気になりました。

じつは、これが理由で、今日は三時に寝たのです。昨日の夜は二十三時に寝ようとしたのですが、なかなか寝られませんでした。

しかし、今日クラスの書いてある紙がはられたしゆんかん、僕は、五Cに自分の名前が書かれているのを見つけました。ここで、五年C組二番であること、四Cで仲良しだった子が四人いたことでどきどきがなくなりました。

教室に上がると、もう五人ほどもいました。ここで五Cの担任の先生が竹下先生とわかり、さらにうれしくなりました。A組は夏山先生、B組は中村先生でした。これからは、このクラスで楽しくすごせるように、がんばって勉強し、はじめをつけたいです。新しく入ってこられた体育担当の松本先生の授業も楽しみにしています。

今日は、新しく入る委員会も決めました。はじめは、保健と図書でまよっていましたが、図書は四年のころ三か月しかなかったのですが、前期いっぱい図書委員会で楽しみながら仕事をしたと思います。



嬉しいことに、クラスから十名の学級委員立候補者が出ました。挑戦する姿勢は、一年前とまたちがった、高学年らしい逞しさを感じました。頼もしいかぎりです。

学級委員

関口 明花

副学級委員

岸野 礼来



半年間、よろしくお願ひします。

「五Cフェスタ」なるものを企画したいそうです。話し合いを通して、実現できるといいですね。